ふみびと

第２４０号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

寒くなっても ほっとする手紙

互いの距離

「お互い様」

日本語には意味や響きの素敵な言葉がたくさんありますが、この言葉もまた美しく、私の好きな日本語のひとつ。

お礼の言葉をいただいた時や、時には迷惑を被るようなことがあった時、その一言で相手も、そして自分自身の心も報われたり救われたりするような気がします。

数年前の大雪のある日。雪道を車で走っていると タイヤがはまってしまい、動けない状態に。ロードサービスを呼ぼうにも、同じような人がたくさんいる中で救援はいつになるか期待はできません。

そんな時に車で通りがかった一人の男性が声をかけて、安全なところまで牽引してくださったおかげで無事家に帰ることができました。人通りの少ない路地で途方に暮れていたところに手を差し伸べてくださった、文字通り「救世主」だった男性に何かお礼をしたいと申し出たところ返ってきたのが冒頭のひとこと。

「お互い様ですよ」

ただのその言葉だけを残して去っていったところに、どことなく日本の美徳のようなものを感じました。

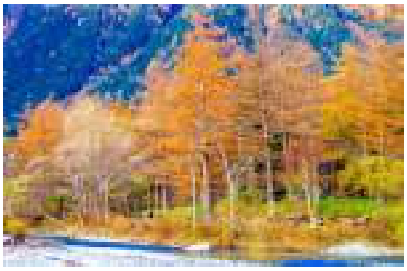
その帰り道、やはり同じようにタイヤがはまって動けなくなっていた車を何台か見つけて、その都度救援のお手伝いをしながら帰宅したのですが、それも先の男性の「お互い様」のひとことがあったからかもしれません。

一人の「お互い様」から生まれる「お互い様」の輪。

いつもなら声をかけ合うことのないような他人であっても、互いの距離は実はそれほど遠くはないような気がします。

「互い」の存在に「お」と「様」を付ける思いやりの気持ち。

いつか誰かに渡すその気持ちで心が温められるのも、きっと「お互い様」のような気がします。



小さなことから

丁寧な生活に憧れる。夜はぐっすりと眠り、食事は旬のものをしっかり味わう。整えられた部屋で、大切な人との時間を穏やかに過ごす。日々の季節をきちんと感じて生きる。そんな毎日が送れたら素敵だと思う。でも、現実はそうはいかない。つい寝るのが遅くなり、寝坊するのはしょっちゅうだ。ジャンクフードの誘惑に負けることもあるし、気がつけば部屋の隅にほこりがたまっていることもある。そんな時は、小さなことから始めることにしている。完璧を求めると、できない自分がいやになってしまう。最初の一口だけよく味わって食べる。机の上だけは寝る前にきれいな状態にする。出かける前に空を見上げて深呼吸する。そんな風に、物足りなさを感じるくらいに小さなことがいい。理想通りではなくても、それだけで、落ち着いた気持ちを味わうことができる。

風にゆられて誰かに届け！ 風船便

いつでも誰でも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局宛の返信用封筒に同封下さい。今までにない交流の始まりです。

次回発送日

★11月の発送日

11月の発送は、通常通り30日です。送りたいお手紙がある場合には、発送日の2日前である28日までに事務局に到着することを確認の上、余裕をもってポストに投函してください。

★12月の発送について

年末（31日）の発送は、年賀状などの郵便事情の影響を考慮し、お休みとなります。それに伴いまして、より多くのお手紙を回送できるよう、通常12月15日の発送を12月19日に変更させていただきますので、ご了承ください。（詳細は別紙）